

いい家をつくる 工務店と出会う



産地とつながり、地域に根ざす
チルチンびと「地域主義工務店」の会

いい家をつくるための基礎知識

木・土・塗料・紙 自然素材図鑑

105製品掲載 保存版 建材カタログ

いい家をつくる工務店の事例11軒



薪ストーブがある平屋で 人生の新たな章が始まる

千葉県 (株)グッドリビングどんぐりの家

千葉県野田市・南邸

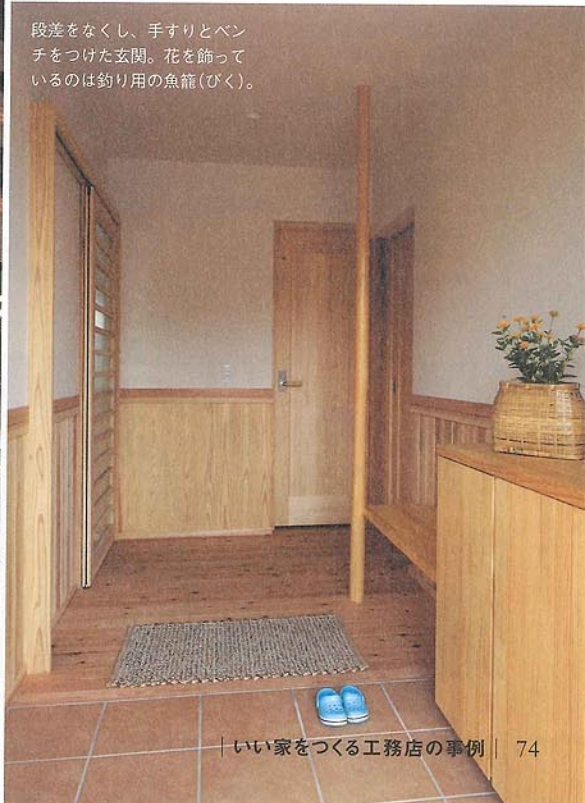
子どもが巣立ち、終の棲処づくりを考えた南さん一家。自然素材とパッシブデザインにこだわる地元工務店とともに、憧れの薪ストーブを入れたバリアフリーの住まいを完成させた。

写真：興水進 文：林 菜穂子



南邸の中心である大空間のLDK。天井、梁、柱、床、すべてが三重県産の杉で仕上げられている。手前のテーブルは清一さんがつくったもの。

段差をなくし、手すりとベンチをつけた玄関。花を飾っているのは釣り用の魚籠(びく)。



外壁の杉板には、清一さんと設計の佐野さんが4日間かけて自然素材の塗料を塗った。

念願の平屋と薪ストーブ

緑が多く残り、盛夏の蝉の声が響く千葉県野田市の住宅街。杉板張りの外壁と広いウッドデッキが印象的な平屋建てが、今年6月に完成した南さんの家だ。中に入ると、屋根や梁を現しにした開放的な空間に迎えられる。床・柱・天井には国産の杉を用いており、爽やかな香りに満ちる。リビング・ダイニングには堂々とした風貌の薪ストーブが据えられ、まるで守り神のような存在感を放つ。

この家に暮らすのは、清一さん・啓子さん夫妻と啓子さんの80代のご両親である隆さんとウメさん。お子さんが独立した後、築40年ほどの2階建てに住んでいたが、安心して過ごせる平屋に建て替えることを決めた。

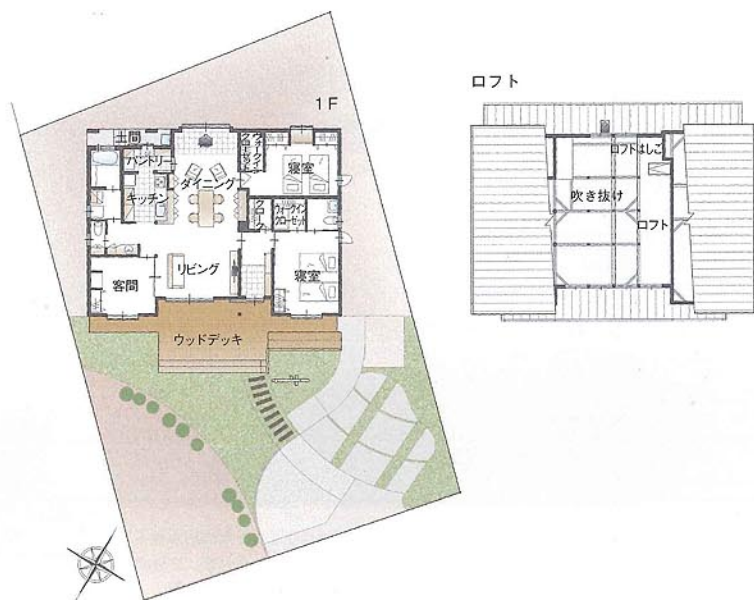
夫妻は「チルチンびと」の愛読者であり、「家を建てるなら無垢の木の家がいい」「自然の光や風を取り入れて快適に過ごしたい」という思いがあったという。また、薪ストーブを入れることは、清一さんのかねてからの夢だった。「子どもの頃に祖父母の家で見たかまどや五右



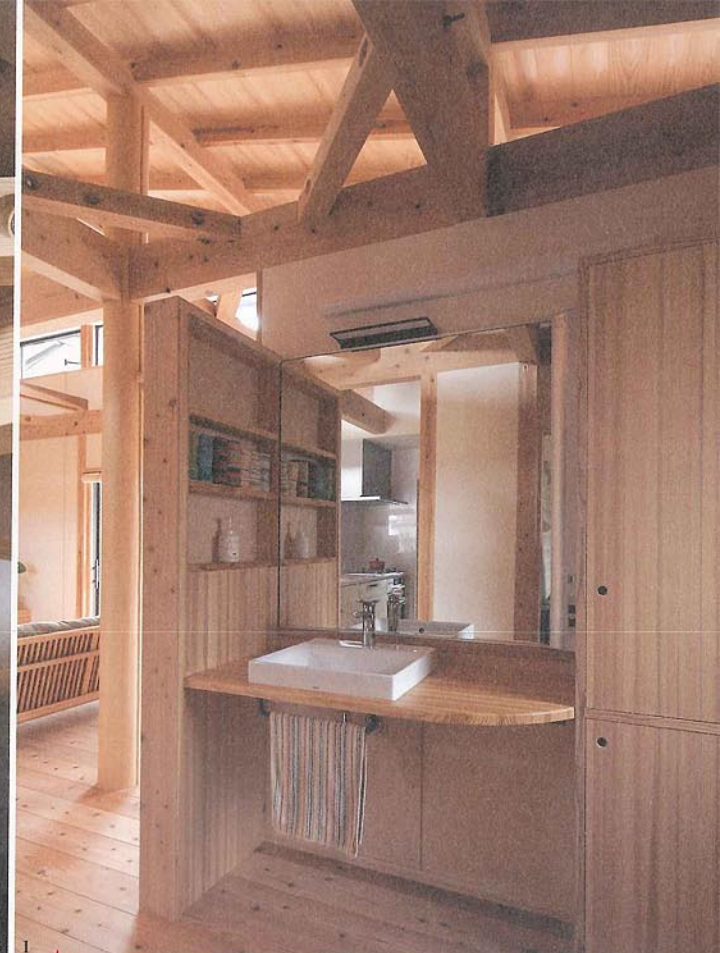
1 収納や棚を造作して使いやすく仕上げた洗面スペース。 2 啓子さんが「これは便利!」と大絶賛するパントリー。キッチン側、リビング側、勝手口側の3方向に開口があり使いやすい。 3 トイレの洗面ボウルは信楽焼。 4 寝室も木のぬくもりたっぷり。使い勝手を考慮してクローゼットやカウンターをつくった。壁は珪藻土で高い調湿性がある。 5 迫力の木組に大工技

が光る。 6 南さん一家(手前)とどんぐりの家の川村一雄社長(奥・左)、設計担当の佐野一広さん(奥・右)。 7 庭の物置も清一さんの手づくり。 8 庭を見守る愛犬のイヴ(15歳)。 9・10 庭では、みずみずしい野菜が収穫を待っていた。「庭で採れた新鮮な野菜でつくる料理が何よりのごちそう」と啓子さん。

所在地：千葉県野田市
 家族構成：夫婦+両親
 敷地面積：482.81㎡
 延床面積：127.02㎡
 竣工：2017年6月
 (工期 2016年12月～2017年6月)
 設計および監理：佐野建築設計室 佐野一広
 施工：(株)グッドリビング どんぐりの家
 構造形式：木造在来工法
 主な外部仕上げ
 屋根＝ガルバリウム鋼板
 外壁＝杉板張り一部塗り壁仕上げ
 軒天井＝珪酸カルシウム板張り
 主な内部仕上げ
 勾配天井＝杉板張り
 壁＝珪藻土塗り壁
 床＝杉板(厚30mm)



1の福祉施設も数多く手がけている。
 こうして完成した南邸の核となるのは、大人数が集まってもゆったりと過ごせる22畳のリビング・ダイニング。風の抜けも最高で、夏でもエアコンを使う必要はないという。また、リビング側の開口部の先は広々としたウッドデッキになっており、バーベキューなどを楽しめる。バリアフリー対応も完璧で、エントランスから家の中まで段差はいっさいなし。玄関、洗面、トイレ、風呂などには手すりを設け、夜中に安心なセンサー式の足元灯も各部屋につけた。
 念願だった薪ストーブは、家全体を1台で暖められる大きなモデルを採用。リビング・ダイニングの正面中央に設置したことで、空間にシンメトリーの落ち着きをつくりだしている。
 この家で暮らし始めて間もない一家は、これからのことを笑顔で話す。「冬が来て薪ストーブを使うのが楽しみ」と清一さんが話せば、「薪ストーブ料理をみんなで食べたいね」と啓子さん。ずっと安心して暮らせるこの家は、四世代の楽しい集いの場となっていくのだろう。

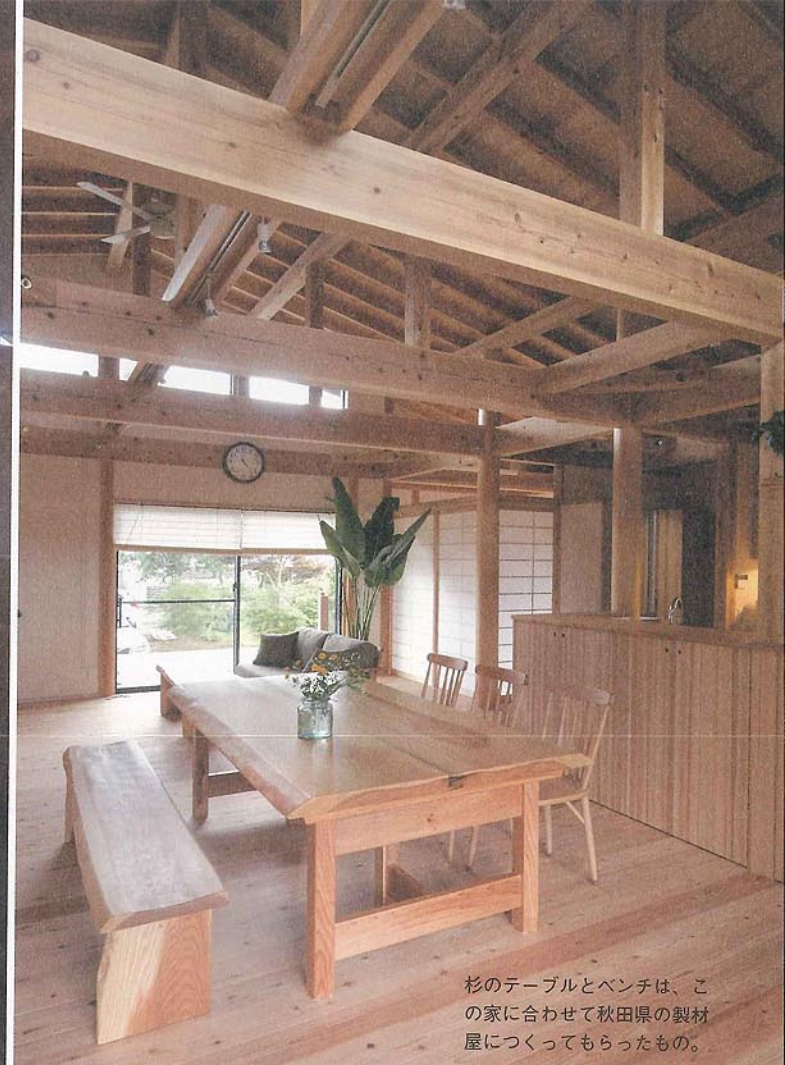


衛門風呂が強く印象に残っていて、子どもや孫に生の火の暖かさを教えてあげたいと思っていました。
 そんな夫妻が家づくりのパートナーに選んだのは、地元工務店のどんぐりの家。同社は自然素材にこだわり、光や風を効果的に取り入れたパッシブデザインの家を建てている。「『ナルチンびと』を読んでどんぐりの家を知ったのですが、地元にも本物の木の家を建てる工務店がある



心地よい終の棲処
 家づくりの打ち合わせで夫は、子どもや孫が集まれる広い空間、足が不自由な隆さんをはじめ家族全員が安心して暮らせること、風がよく抜けることなどを希望した。それを受けて設計を行ったのは設計士の佐野一広さん。パッシブデザインの家づくりを信条とし、バリアフリー





木のぬくもりに包まれて料理
ができる開放的なキッチン。
収納たっぷり使いやすい。

杉のテーブルとベンチは、こ
の家に合わせて秋田県の製材
屋につくってもらったもの。



薪ストーブはパーモントキャ
スティングスの DEFIANT。
薪棚は清一さんのお手製。